

会 派 活 動 報 告 書

令和 7年 4月 20日

岡谷市議会議長

今 井 康 善 殿

会 派 名 おかや未来研究室

代表者名 吉田 浩

令和 元 年度における岡谷市議会 会派「おかや未来研究室」の活動について、下記のとおり報告いたします。

活 動 項 目	活 動 内 容 及 び 活 動 の 実 績 と 効 果
調査研究	○活動内容 5 月 22、23 日 会派視察 ・東京都三鷹市「探究学舎」～受験も勉強も教えない、驚と感動の種をまく学び舎～ ・茨城県境町「さかい道の駅」～自動運転バス試乗ほか～ ・埼玉県草加市「草加市役所」～そうかりノベーションまちづくり構想～ 7 月 31 日 会派視察 ・南箕輪村役場 「南箕輪村における人口増加の要因～移住者も暮らしやすい環境づくり」 ・日本聴導犬協会(宮田村) 「聴導犬・介助犬の育成について」 8 月 21 日 会派視察 ・小諸市 都市計画課「まちタネ広場について」 ・高野慎吾氏(元市職員で現不動産業)『おしゃれ田舎プロジェクトについて』 ・犀の角(上田市)「のきしたプロジェクトについて」 ・上田映劇(上田市)「上田子どもシネマクラブについて」 11 月 11 日～11 月 14 日 会派視察 ・1 日目、しまなみ海道サイクリングロード体験・視察(今治市泊) ・2 日目、松山市役所「全世代型防災教育と自主防災組織について」(松山市泊)

・3 日目、小豆島 二十四の瞳映画村「SDGs 取組事例と映画・地域課題について」、小豆町観光協会「オリーブ等を活用したシティプロモーションについて」(高松市泊)

・4 日目、岡山市内「瀬戸内スタートアップ事業(民間)について」

1 月 17 日

現地視察

児童養護施設「つつじヶ丘学園」

施設見学、川瀬学園長との懇談

「児童福祉や教育に関する地域課題について」

2 月 7 日

現地視察

諏訪児童相談所

森美奈子所長および栗幅健晴副参事

「社会的養護と里親制度について現在の取り組みと課題」

○活動の実績と効果

①東京三鷹市「探求学舎」

公教育では出来ないことをやっているとおっしゃっていましたが、公教育にも探求学舎のエッセンスを入れたら、子どもたちにとって楽しい授業になるでしょうし、子どもたちの探求心に火が付くことで学校がもっと楽しい場所になると思いました。探求学舎は子どもたちの居場所の役割もあるとおっしゃっていました。それに対し中島議員の学生の頃は、みんなが家にいるよりも楽しくて、学校が居場所だったようです。(私の頃もそうだったと思います)背景としては、昭和時代は今と比べると先生も児童・生徒も自由だったことが理由の一つのようです。居場所というキーワードは、これからの学校づくりに、とても重要になると思います。教育は10年後、20年後の岡谷市や日本を創るものですので、何においても最優先で取り組むべき事案だと考えています。今回の視察は午前中でしたので、実際の授業の様子を見ることはできませんでした。次回は授業を受けている子どもたちの表情や変化を見たいものです。岡谷市においても川岸学園構想をキッカケに市内の全小中学校の、これからの教育をどうするのか? 将来の岡谷市にどんな人材が必要なのか? そんな議論が全市的に活発になるように取り組んでいきたいと思いました。

②茨城県境町「さかい道の駅」

岡谷市にはシルキーバスや路線バスがあるものの、地域内の公共交通インフラが弱く、便数も限定的であることから、住民の高齢化が進んでも自家用車を利用しないと移動手段がなく、なかなか高齢者が安心して運転免許の返納がで

きないという実情がある。「道の駅さかい」を基点とする「自動運転バス」が、地域の活性化や市民プライドの形成に一役買っているのは間違いないのだが、財務的に現在の岡谷市では真似をしようがないが非常に残念だ。境町はふるさと納税額が6年連続で関東圏第1位であり、その額は40数億円にも上る。自主財源の豊かさがあってこそその地域活性化であり、予算の縮小均衡を名目に“人減らし”に走って地域の停滞や後退を招いている岡谷市とは雲泥の差がある。ふるさと納税戦略室の設置を提言しても聞いて聞かぬふりをしているような現状では。

③埼玉県草加市「草加市役所」

「そうかりノベーションまちづくり」により、およそ10ものお店がオープンし、空いている建物がなくなったという。草加は決して小さい街ではないが、街のエッセンスになっている。

「DIO (Do it ourselves) =ほしい暮らしは私たちでつくる」をミッションに掲げ、2階建ての古いアパートをリノベーションした「シェアアトリエ つなぐば」は、やりたいことと、必要なことが詰まっていて、とても良いと感じた。やりたいことは、地域の人が利用できるカフェやシェアアトリエ、美容室など。必要なことは、子連れで働けるシェアアトリエと子どもスペースのあるカフェ。ここに設計事務所「つなぐば家守舎」が入っている。いわばそうかりノベーションまちづくりの象徴的な施設と言える。「仕事につながる／母親につながる／地域につながる」の3つを軸に運営しているという。こういう場が岡谷にもつくれないだろうか。準備ができればここから旅立ち、また新しいメンバーが入ってくる。その循環は鳥の巣立ちを思わせる温かみがある。

異業種の人たちが集まることで、いろいろなアイデアや可能性が生まれたり、想像していなかったようなプロジェクトの誕生につながったりするのだそう。一緒に日々を過ごして、共通の課題を持っているからこそだと感じた。

④南箕輪村役場

概要として、人口16079人(今年7月1日現在)、移住者の割合は73.3%(2022年3月策定の地域福祉計画におけるアンケート結果による)、社会増と自然増の両面で人口が増加している(足元で死亡数増加により、自然減に)。30代から50代層が多く、高齢化率も23.8%で県下で最も低く、若い村である。移住者が多い理由としては、子育て支援の充実と近隣市町村に比べて地価が安いということであった。ただ、移住者を増やすために子育て支援に力を入れたというよりも、「日本一の子育てに優しい村」をめざして、今いる村民の子育てを応援しようと早い時期に取り組んできたところ、口コミで広がり、結果的に移住者が増えたということで、大変に印象的であった。女性がかがやき、活躍している村であるという事を感じた。実際のところ、村役場の管理職の半数が女性とのことであった。同席した副議長によれば、議場における理事側は半数が女性とのことであった。これも、単に女性の管理職を増やそうと取り組んだというよりも、子育て支援にも関連して、女性の就業支援にこれまで継続的に取り組んできた結果で

はないかと思われた。自治会の改革にも取り組んでいるということ。なかなか手を付けられない事に、村長が率先して推進しているとの印象をもった。持続可能な自治会を目指して、高齢化等もあり負担を減らしつつ、村で出来ることを引き受けるとのこと。岡谷市としても、同様の課題があるので、今後の取り組みを注視するとともに、大いに参考にしていきたい。地域おこし協力隊の活躍も注目される。現在12人が活動中だが、随時受け付けているとのこと。たとえば、専門知識が必要な森林の管理など、既存の職員だけでは対応が難しかった分野で活躍しているとの事であり、岡谷市としても、参考にしていきたいと思う。感想としては、まず自治体としては、今いる住民を大切に、魅力あるまちづくり、住みよいまちづくりを目指して、継続的に政策の推進に取り組んでいくことが王道であり、肝要であるということ、改めて確認する事が出来たと思う。

⑤日本聴導犬協会

バリアフリーの聴導犬・介助犬訓練センターは2008年9月に竣工した機能的な建物でした。実際に、介助犬よしくん、聴導犬ひさちゃん、せいじくんに、順番待ちの呼び鈴を知らせる、目覚まし時計が鳴った時に知らせる、落としてしまったスマホを拾う等のデモンストレーションを行って貰いました。高齢社会の進展とともに、誰もが障がいを持つ可能性があり、障害のある方の生活支援と動物福祉の活動は、ますます重要になる取り組みと感じた。学校教育の現場においても、多目的補助犬等の学習は有意義ではないかと思いました。

⑥しまなみ海道サイクリングロード

「しまなみ海道サイクリングロード」は、世界7大サイクリングコースに選定されているだけあり、ハード面では抜群の内容であった。今回、サイクリングを体験したコースは距離的には全体の1/7程度であったが、自転車で行くストレスを感じることなく、また、自転車のレンタル・返却等ができるレンタルステーションが各所に整備されており、また、スマホ等の利用でサイクリングによる瀬戸内の島巡りの場合にも対応できる仕組みができている。・本州と四国を結ぶ橋を架ける際に自動車専用道路とすることなくサイクリングを活用した観光ビジョンの基に、県を跨いだ広域で推進することで其々の地域資源をフルに活用する手法は見習うべきところが多いと感じた。・今回のサイクリング体験は、僅か10km程であったが、再度訪れて、もっと時間を取って楽しみたいと思ったサイクリングロードは今回が初めてであった。このサイクリングロードのビジョンとハードのマッチングが上手くできているからだと思うが、また、ソフト面においても、「サイクリングしまなみ2024」やSNS等を活用したプロモーションと体験談等によって多くの人がしまなみ海道に注目して興味を持てる仕組みができていることもその一因であると思う。・「しまなみ海道サイクリングロード」は完成から25年が経過しており、細かな部分は別としても総体的には大変に魅力あるコンテンツとなっている。諏訪湖サイクリングロードを含めて各地にサイクリングロードが整備されて、其々に地域資源を活用した形になっているが、他にはない地域の魅力を上手く取り込んでいくことの難しさを感じた。・出合った人の半数位(もっと多いかも?)が、外国からの、所謂、インバンドであった。また、レモン果汁を提供している店では、現金が使えずにカード或いはスマホ決済であった。

四国というイメージからは想像し難い部分であり、大変に驚いた。世界に向けた観光資源を活かしていくには、こういう部分の対応や整備も重要だと感じた。・泊まったホテル(しまなみプライムホテル今治)でもサイクリストへの配慮がされており、サイクリストの宿泊客も多かったが、今治の街の活性化に向けた「しまなみ海道サイクリングロード」の活用には興味があるところである。・「しまなみ海道サイクリングロード」には、多くの魅力的な場所や施設があり、また、是非訪れたい場所であった。

⑦松山市の防災・減災対策の取り組み

松山市は、地域防災を担うリーダーとして期待される防災士の育成に、最も早くから取り組むことによって、災害に強いまちづくりを推進しているだけでなく、地域の活性化も進めているという印象であった。災害に強いまちづくりは、一面ではひとづくりが肝要であると感じた。行政主導だけでなく、自発的に活動して、自助や共助を担う地域防災リーダーの育成である。そうした人材は、地域のまちづくりにも積極的にかかわり、地域の活性化にとっても大事な人々になると思う。今年度から防災士取得費用の半額助成を始めた岡谷市にとって、大いに参考にすべきと感じた。

⑧小豆島「二十四の瞳映画村」

「二十四の瞳映画村」は、映画文化と文学遺産、風光明媚な自然景観を軸に地域の魅力を発信する観光地として多大なポテンシャルを持っていました。施設の維持や観光プログラムの多様化を図ることで、国内外からさらに多くの観光客を迎え入れる戦略が見事で、特に環境に配慮した「持続可能な観光地」という認識は非常に大切だと感じました。経済効果ばかりに目を奪われると、大切な景観や自然や文化遺産を失いかねません。文化遺産の保存と観光資源としての活用を両立するための施策を岡谷市でも検討していかねばなりません。

⑨小豆島、持続可能な観光

首長が変わったことを機に、小豆島に複数あった観光協会を1つ統合。観光事業の促進を進めることで持続的な島づくりの中心的役割した。リーダーが変わることでまちは変わるということを学びました。また、5年間で取り組む基本戦略を策定し、それに基づく10のアクションプランを設定。さらに、観光客の宿泊旅行調査など細かく行動分析を行っていた。課題点を明確にして戦略的に、観光を切り口として小豆島に住み続けることができるまちづくりを戦略的に行っていた。まちの強み弱みを分析することで明確な計画を立て実行していた。岡谷市においても明確なビジョンを持ったリーダーが必要であり、諏訪圏、特に諏訪湖周の2市1町の観光面における更なる協力を行い、持続的で魅力ある観光の構築が可能だと感じました。

⑩つつじが丘学園

視察を通じて、つつじが丘学園が地域における児童福祉の拠点として重要な役割を果たしていることを再認識した。特に、中間施設(グループホーム)の増設や「こども宅食」の実施など、市として協力できる支援策が数多くあることが確認された。

	今後、市としては、以下の点を検討する必要がある。 1. 施設支援の充実:施設間のICT化の推進や職員の労働環境改善を支援する。 2. 地域との連携強化:「こども宅食」事業への支援や、施設と地域社会をつなぐ仕組みの構築。 3. 児童の自立支援策:社会に出る際の準備として、職業訓練や教育支援を強化する。 つつじが丘学園の視察を通じて、施設が地域に根差した養護と支援を提供していることが分かった。施設職員の熱意や、子どもたちの健やかな成長を支える取り組みが印象的であり、今後、市としてどのような支援が可能かを引き続き検討し、児童福祉の向上に寄与していきたい。 ⑪諏訪児童相談所 児童福祉法の理念である、子どもの権利擁護及び最善の利益の保障の実現のため、児童相談所の存在意義の大きさを改めて確認することができた。また、虐待など子どもがさらされる環境の要因は、複雑化・多様化していることから、児童相談所の職員のスキルアップが求められると感じた。とともに、初期段階から対応することが多い市の職員のきめ細かい対応や、専門性の高い対応が求められるようになってきていると感じた。里親制度が家庭養護の推進のため重要であると認識したが、なり手やマッチングの増加、支援体制の充実のため、更なる啓発等の取り組みが急務であると実感した。
研 修	○活動内容 4月18日・19日 JIAM 大津研修 「国家戦略特区の取組と地方創生」 講師 兵庫県養父市長 広瀬栄氏 「吉本興業の地域創生の取り組み」 講師 吉本興業ホールディングス(株)代表取締役副社長 泉正隆氏 「地域マーケティングによる戦略的なまちづくり」 講師 秋田大学准教授 益満環氏 「地域ブランディングのケーススタディ」 (株)CARTA 代表取締役 矢田部美里氏 ○活動の実績と効果 ①国家戦略特区の取組と地方創生 過疎化が進み将来的に消滅都市となる危惧のある中で、様々な取組に果敢に挑戦している養父市長の心 意気とチャンレンジスピリットには感銘したし、大いに学ぶべきだと思った。 様々な取組により養父市の未来への道筋をつけよ

	うとする姿勢とそれに向けた努力には敬服するが、一方で、これらの取組の先に養父市の未来が描けているかという点と必ずしもそうでないのでは？とも感じた。先の結果は 別としても先ずは当面の課題解決にチャレンジをすることにフォーカスしている様に思った。宇野議員の「移住、定住への効果は？」という質問でも、「何処にも負けない手厚い手当てや取組をしても人 が来ない」という返答であったが、岡谷市でも移住・定住に向けては、そういった取組だけではなく、人が住むに あたって、より本質的な部分で価値のあるまちづくりをしていくことが必要なのではないかと思う。・岡谷市には、将来においてポテンシャルの高い要素がいくつもあり、それらを活用できる仕組みづくりが重要で、特に、特区(諏訪湖周の水辺空間)の活用を積極的に考えていく必要がある。 ②吉本興業の地域創生の取り組み 地域への移住（・定住を推進する政策の要は（“楽”の政治）だと私はずっと考え続けて来た。行政が提供する様々な施策によって老若男女の市民生活が楽になり、住んで楽しいまちづくりの推進である。その具体策を考えるためのさまざまなヒントを吉本興業の取り組みに見出すことができる。諏訪広域連合主催の婚活事業イベントで、吉本芸人が よしもとすわ婚隊長」として恋のキューピット役としてイベントを盛り上げた過去の実例もあり、岡谷市でも吉本芸人とのコラボ事業をぜひとも企画してみたいと思った。 ③地域マーケティングによる戦略的なまちづくり デジタル社会における地域活性化や地方創生には、地域特性に応じた、ローカルイノベーションが欠かせないと感じました。イノベーションとは、物事の「新機軸」「新結合」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用方法」を創造する行為のことで、それまでのモノ・仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出して大きな変化を起こすことです。大仙市の日本酒の取り組みを 1 つの事例として、岡谷市の歴史・文化、地域特性、特徴を踏まえたモノ、コト、ヒトを考えることが重要であり大変参考になりました。
広 報	○活動内容 通年、会派ホームページと Facebook による活動の発信と報告 ・ ホームページ：http://okalab.info/ ・ Facebook：https://www.facebook.com/okayamirai.lab/ ○活動の実績と効果 ①会派おかや未来研究室の Facebook では現在(令和 7 年 4 月 15 日時点)、フォロワーが 631 名いる。また、会派のホームページや Facebook 及び会派メンバーの各自の Facebook 等の SNS で活動報告等の情報発信を随時行った

広 聴	○活動内容 5月11日 市民有志の会「市民と議員の架け橋の会」主催による意見交換会に会派として参加 ○活動の実績と効果 約40名の市民から議会についてや様々な事柄についてご意見をいただきました。
要請・陳情	○活動内容 12月11日 市へ「令和7年度 岡谷市の予算編成に関する要望書」提出 ○活動の実績と効果 市長へ「令和7年度 岡谷市の予算編成に関する要望書」提出 令和7年度予算編成にあたり、これまでの本市の各事業の取り組みの進捗を検証し、また、日頃、市民から寄せられている要望事項に加えて、将来を見据えた本市の政策課題解決に向けて調査・研究、議論を重ねて積み上げたものを要約して、8分野107事項を要望書にまとめて提出した。 また、2月24日付けの市民新聞に予算編成への要望書のダイジェストを広告掲載した。
そ の 他	○活動内容 会派定例会 計20回以上開催（原則金曜日） 議案勉強会4回、理事者との懇談会4回 ○活動の実績と効果 会派の理念『活力ある明日の岡谷をデザイン』するため、団結して行動し、議会の機能充実と議員の資質の向上を図ると共に、市民に信頼される政治活動に取り組む』こととし、また会派テーマの『活力ある明日岡谷市をデザインする』に向けて、調査、研究、研修活動がスムーズに進められるように定期的な意見交換、勉強会、課題共有や意思疎通を図ることができた。

【活動実績】

※会派活動報告書は年度ごとにまとめ、年度当該年度の収支報告書の提出に合わせ議長に提出するものとする。

※議長は、提出された会派活動報告書を収支報告書と同様に公開するものとする。